

平成22年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1470700756	事業の開始年月日	平成17年2月1日
		指定年月日	平成17年2月1日
法人名	社会福祉法人 育生会		
事業所名	グループホーム かぐやひめ		
所在地	(〒235-0043) 神奈川県横浜市磯子区氷取沢町451-3		
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		工外数	2工外
自己評価作成日	平成23年2月6日	評価結果 市町村受理日	平成23年6月13日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none"> ホームの周辺には、沢山の自然が残っています。建物の後ろには竹林が迫り、リビングからガラス越しに、一面竹林を眺めることができます。 利用者さんがその人らしい生活ができる様にその時を大事にしながら援助しています。 ボランティアさんの来所が多くあり、体操、音楽療法、アートセラピー、お茶会、三味線の会等、楽しんで頂いています。 他は、季節毎の行事として、四季のお花見の外出やバーベキュー大会を楽しんでいます。 食事も職員が買い物から全て行い、3食共作っています。野菜中心のメニューを各々工夫して召し上がっていただいています。 全体に、家庭的な雰囲気の中で、利用者さんから、要望を気兼ねなく話して頂いたり、楽しく会話できるホームです。 <p>なるべく全員が参加できるよう声かけして、刺激のある生活を目指して支援しています</p>

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	神奈川県横浜市中区本町2-10 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成23年3月10日	評価機関 評価決定日	平成23年5月23日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>【事業所の立地・環境】 この事業所はJR根岸線洋光台駅からバスで10分、バス停から徒歩5分の奥まった小高い農地に囲まれた住宅地に立地している。 建物は木造2階建て単独型で、すぐ裏山に竹林が密生し、閑静で穏やかな環境である。リビング正面のガラス越しに、竹林が眺望でき和の風情が満喫できる。</p> <p>【安心の医療と見守り支援】 医療連携体制加算の算定対象となっており、協力医療機関は2週毎に往診があり、看護師は毎週訪問がある。体調管理には細心の注意を払い、早めに変化に気づき早期対応、早期受診をするように心がけている。特に認知症特有の訴えの把握が遅れることのないように気をつけている。 転倒などの事故が体力低下の要因になるので、職員は毎日の声かけ、見守りを励行して、事故をなくすように配慮している。</p> <p>【役割、レクリエーションの支援】 日々の暮らしが、楽しみや張り合いのあるものになるよう、家族の要望も聞き入れて、家事や手伝いを自宅にいる時と同様に、役割として果たしてもらい、今を大切に、生活を楽しんでいけるように支援している。 元気な状態を長くいつまでも維持するためには、日々の運動やレクリエーションが習慣として定着するように、ボランティアの協力を得て支援している。 地域のボランティアは、体操が月3回、音楽療法が月2回、お茶会とアートセラピーは隔月、三味線が年2回定期的に訪問がある。また、利用者は大衆演芸と落語も楽しみにしている。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム かぐやひめ
ユニット名	1階

アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を1・2階の事務所に掲示して絶えず確認できるようにしている。月1回のスタッフ会議や毎日の申し送りの際に、日々の介護について理念に合っているか話し合っている。	「家庭のような環境で、その人らしく自立した生活を維持する介護と地域との共生を目指す」との理念を入職時に説明し、スタッフ会議で確認している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、回覧板も回ってくる。地域の行事については隣地に住む大家さんから情報を入手して、参加している。	利用者も町内の夏祭りやどんど焼きに参加し、地域の人々と交流している。防災訓練は職員が参加している。利用者は、体操、音楽、お茶、三味線、大衆演芸などのボランティアが来るのを楽しみにしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方とは、散歩時、挨拶を交わしたりしてお付き合いをしている。スタッフと利用者のつながりを見ていただいて、ホームの雰囲気を感じて頂いていると思う。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年2回開催して、活動状況報告を行っている。地域の方より、協力的な意見を頂いて、有意義な会議になっている。	年2回定期的に開催している。町内会長、民生委員、地域包括支援センター所長、建物所有者、利用者、家族が参加している。防災訓練への地域の協力を依頼し、地元消防団が参加してくれた実績がある。	地域の意見や協力をより多くサービスに反映するために、運営推進会議を年2回からさらに増やして実施されることを期待したい。
5	4	市町村との連携 市町村担当者から日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区の担当者から、入所の問い合わせが多くある。生活保護の方について、区の担当者が様子を見る為に視察に来られる。	区のグループホーム連絡会に参加し、意見交換をしている。区からボランティアの紹介を受け利用者の食事準備の補助をしてもらっている。また、定期的に介護認定更新手続きに出向いている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	普段より、利用者の人格を尊重する声かけを心がけている。行動制限や施錠をしない対応を実践している。	法人の「身体拘束等行動制限についての取り扱い要領」により研修をし、職員は身体拘束をしないケアを理解し、取り組んでいる。玄関は日中は施錠せず、チャイムで出入りを確認し見守りしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修にスタッフが参加して、スタッフ会議で発表して情報を共有している。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加する機会を増やして、知識を深めていきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、本人、家族と同席して重要事項説明書、利用契約書について説明して理解して頂いている。退所時には、ご家族と入居者が求めている要望に添って、納得のいく退所先を援助している。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を開催した折に、ホームに対する意見を出して頂き話し合っている。	家族の来訪時や連絡ノートで意見や要望を聞いている。「歩行が出来なくなっても、置いてほしい」との切実な訴えもある。家族会は年2回開催し4家族が参加している。「たけのこ通信」としてお便りを年2回発行している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議で職員からの意見を聞き、即答できない内容は、法人の運営会議で報告して、結果をスタッフ会議で伝えている。	毎月のスタッフ会議では、事前に職員から議題を募り、意見や提案を反映させている。引継ぎノートに記入することもある。職員の思い違いや考え方の相違点は、個人面談などの機会に話し合い、職員の一体感を高めるように努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1回の法人の運営会議で毎月のホームの状況を報告している。その会議で、改善点を話し合っている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内のグループホームとは、お互いに情報交換しているが、内部研修への参加は出来ていない。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	区と市のグループホーム連絡会に加入して、意見交換している。市の現場研修にあたり、他のグループホームの実習受け入れを行い、情報交換を行った。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に、ご家族に本人の生活パターンを聞いている。ご家族からの要望を伺い、本人からの希望を、自然な雰囲気伝えて貰えるように、声かけしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所にあたって、家族からの要望を電話でお聞きしたり、来所時に話し合っ、頻回に連絡を取り合っている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族と本人の要望を聞いて、本人の気持ちを尊重しながら、ホームの生活に慣れて頂けるように、サービス内容を決定している。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の人格を大切にしながら、本人の生活を援助させて頂くという心がけでケアしている。お互いに生活を楽しむという気持ちで過ごすようにしている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の様子をご家族に説明して、本人の気持ちを優先しながら、ご家族の要望を聞いて、話し合う機会を多く持つようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は、出かける利用者への援助は行っていないが、ホーム内でのクラブ活動を楽しんで頂いている。	利用者の友人が何組か訪ねて来て、一緒に散歩に出たりしている。お茶菓子を持ってこられた際は、湯茶を接待して関係継続の支援をしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自由に生活して頂いている中で、リビングで談笑されたり、午後は出きる限り、全員でレクリエーションを行うようにしている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、ご家族より近況報告を頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	常に、コミュニケーションをとるようにして、希望を居室担当者が聞いたり、日常的に会話している中で、本人の願いを早めに叶えるようにしている。	日常生活の会話の中で、希望や意向を聞き取るようにしている。把握が困難な方は表情や仕草で判断し、二者択一で決めてもらうこともある。聞き取ったことは、ミーティングで話し合い、共有している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の情報をスタッフ間で共有して、入所後も希望を聞き、サポートしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	居室担当者を各利用者に決めて、本人の希望や状態を把握して、スタッフ会議や日々の業務の中で話し合い、情報を共有している。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のスタッフ会議で、全利用者の問題点を話し合っ、ご家族の要望を取り入れて、プランに結びつけている。ご家族には連絡ノートを作り、読んで頂いている。	毎月のスタッフ会議で全員の状況を話し合い、事前に書いてもらった家族の希望も取り入れて、介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを行い、6ヶ月毎に計画を見直している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌に毎日実行したプラン内容を記入しながら、ケアの質の見直しを行っている。本人の状態の変化に添った対応を行う様に、留意している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の要望に応じて対応している。通院時の付き添いをその方に合わせて、ヘルパーを依頼したりスタッフが援助している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの来所も随時あり、体操、音楽療法、お茶会、アートセラピー、三味線の会、食事補助等、来所して貰っている。話し相手のボランティアも依頼している。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携している病院の医師が月2回往診の為、来所している。近所の医院への通院をスタッフが援助している。	現在は全員が協力医をかかりつけ医としている。往診は2週に1回、看護師の訪問は週に1回である。歯科、眼科、皮膚科などは家族が通院介助をしているが、都合のつかない時は職員が行うこともある。	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月4回法人の看護師が来所して、バイタルチェック等健康管理して頂き、相談している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の本人の状態をご家族に聞きながら、病院の医師との面談に同席して、ご家族の意向と合わせて、入院後の方針を決定している。提携病院の医師に相談をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明して書類を渡している。今後の本人の状態の変化によってご家族に特養ホームの申し込みを依頼している。	入居時に「常時治療を要する状態になった時は病院へ入院となる」などの重度化対応指針を説明し、本人、家族の同意書を得ている。入院になるまでに家族、医師、看護師、職員で何度も話し合い、対応方針を決めている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応の講習をスタッフ全員受けて、勉強している。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を消防署立会いの元、地域の防災団の方にも参加して貰い、消火器の使用法、避難訓練を行った。	避難訓練は年2回、うち1回は消防署の指導で行っている。夜間想定訓練も行っている。地域消防団、民生委員、住民代表にも参加・協力を得ている。非常用食料、備品は2日分を備蓄している。前回の目標達成計画は達成済みである。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に、年長者への尊敬の気持ちを持ちながら、声かけを行って援助している。	言葉遣いや接遇態度については、新人研修で説明し、会議、ミーティングで確認している。個別には先輩職員が職場内実習で指導し、徹底している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から、利用者からスタッフに話しかけ易い雰囲気作りに気をつけて、時々、マンツーマンで希望をお聞きしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の今を大事にして、その方に合った生活のペースを維持して貰えるようにケアしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の様子観察を行い、スタッフが助言したり、整容面を援助をしている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜を切ったり、フライの衣をつけたり、食後の後片付けや食事前の準備を手伝って頂いている。	献立は食材を見て利用者の好みも聞いて決めている。利用者は下準備や配膳、下膳などできることを手伝っている。職員も一緒に同じ食事を摂っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	スタッフが3食共、献立を決めて調理している。野菜を多くとれる様な献立にしている。水分摂取量の把握をしながら、食事やおやつ以外に水分を勧めて摂取して頂いている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの援助している。口腔セットを事務所預かりにして、口腔ケアの援助している。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時、随時にトイレの声かけや、トイレ誘導して、出来る限り、本人の気持ちへの気配りをする様にスタッフが心掛けている。	排泄チェック表を記入して利用者の排泄パターンを把握している。定時にあるいはパターンに応じてトイレ誘導し、トイレでの排泄を促して自立への支援を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便チェックして、水分や食事量を確保している。水分量が少ない方へは、牛乳、ジュース等好きな物を飲んで頂いている。食事前には、皆で廊下を歩行練習している。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	大体、入浴日はスタッフが決められているが、本人の希望も取り入れている。行事等で、随時変更をしている。時間帯は、その都度、本人の希望を聞いている。	入浴は週に3~4回入れるようにしている。入浴したがない人には、声かけを工夫したり、タイミングを見て入ってもらう。希望により入浴剤を入れて楽しむ方もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後や、通院後等、居室やソファ、リビングで休んで頂いて、リラックスした時間を過ごして頂いている。		
47		服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更後は、様子観察を行い、ケースファイルへ記入して情報を共有している。服薬リストを作成して、その都度、記入している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節毎の外出やバーベキュー、行事、ボランティア体操、音楽療法、ゲームや散歩等、出来る限り全員で参加して貰うように、声かけして、刺激のある生活を目指して援助している。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所のお店へ、散歩がてら、本人の好きな物を買いにでかけた、り、外食の機会を作って出かけている。	天気のよい日は近所の川沿いを30分位散歩する。車イスの方も一緒に出かけている。スーパーへ買物や外食に行くこともある。季節の行事としては、三溪園への花見や、港の見える丘公園へのドライブに出かけている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを事務所で預かって、本人の好きな食品を一緒に買ったり、依頼された物を購入している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時や、贈り物が届いた時に、ご家族へ連絡して、電話で話して頂いている。友人と、手紙のやり取りもされている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生花や、季節のかざりつけ、貼り絵を利用者と一緒に作成して、季節感を感じて頂いている。	建物の背景は竹林に囲まれ落ち着いた環境である。リビングは窓が大きく、2Fは天窓から陽も入り、明るい。壁面にはアートセラピーの作品や大きな貼り絵、棚にはお雛様が飾られ、温かな生活感がある。	
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングやソファに座って、気の合う仲間と談笑したり、テレビ、ビデオを見て過ごして頂いている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される時に、自宅での馴染みの物を運んで頂いて、使い慣れた品物がある事によって安心して生活して頂けるように援助している。	居室ではベッド、イス、テレビ、整理ダンス、鏡台などの使い慣れた家具に囲まれて過ごしている。壁には貼り絵や習字などの自分の作品や家族の写真などを貼り、落ち着ける場所となっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各々利用者さんの個性やADLに応じて、声かけに留意している。出きる限り、役割を持って生活して頂けるように援助している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1470700756	事業の開始年月日	平成17年2月1日
		指定年月日	平成17年2月1日
法人名	社会福祉法人 育生会		
事業所名	グループホーム かぐやひめ		
所在地	(〒235-0043) 神奈川県横浜市磯子区氷取沢町451-3		
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		工外数	2工外
自己評価作成日	平成23年2月6日	評価結果 市町村受理日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ホームの周辺には、沢山の自然が残っています。建物の後ろには竹林が迫り、リビングからガラス越しに、一面竹林を眺めることが出来ます。利用者さんがその人らしい生活出来る様に、その時を大事にしながら援助しています。ボランティアさんの来所が多くあり、体操、音楽療法、アートセラピー、お茶会、三味線の会等、楽しんで頂いています。他は、季節毎の行事として、四季のお花見の外出や、バーベキュー大会を楽しんでいます。食事職員が買い物から全て行い、3食共作っています。野菜中心のメニューを各々工夫して召し上がっていただいています。全体に、家庭的な雰囲気の中で、利用者さんから、要望を気兼ねなく話して頂いたり、楽しく会話できるホームです。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名			
所在地			
訪問調査日		評価機関 評価決定日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

--	--	--	--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム かぐやひめ
ユニット名	2階

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11,12)		1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を1・2階の事務所に掲示して絶えず確認できるようにしている。月1回のスタッフ会議や毎日の申し送りの際に、日々の介護について理念に合っているか話し合っている。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、回覧板も回ってくる。地域の行事については隣地に住む大家さんから情報を入手して、参加している。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方とは、散歩時、挨拶を交わしたりしてお付き合いをしている。スタッフと利用者とのつながりを見ていただいて、ホームの雰囲気を感じて頂いていると思う。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年2回開催して、活動状況報告を行っている。地域の方より、協力的な意見を頂いて、有意義な会議になっている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区の担当者から、入所の問い合わせが多くある。生活保護の方について、区の担当者が様子を見る為に視察に来られる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	普段より、利用者の人格を尊重する声かけを心がけている。行動制限や施錠をしない対応を実践している。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修にスタッフが参加して、スタッフ会議で発表して情報を共有している。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加する機会を増やして、知識を深めていきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、本人、家族と同席して重要事項説明書、利用契約書について説明して理解して頂いている。退所時には、ご家族と入居者が求めている要望に添って、納得のいく退所先を援助している。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を開催した折に、ホームに対する意見を出して頂き話し合っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議で職員からの意見を聞き、即答できない内容は、法人の運営会議で報告して、結果をスタッフ会議で伝えている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1回の法人の運営会議で毎月のホームの状況を報告している。その会議で、改善点を話し合っている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内のグループホームとは、お互いに情報交換しているが、内部研修への参加は出来ない。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	区と市のグループホーム連絡会に加入して、意見交換している。市の現場研修にあたり、他のグループホームの実習受け入れを行い、情報交換を行った。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に、ご家族に本人の生活パターンを聞いている。ご家族からの要望を伺い、本人からの希望を、自然な雰囲気伝えて貰えるように、声かけしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所にあたって、家族からの要望を電話でお聞きしたり、来所時に話し合っ、頻回に連絡を取り合っている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族と本人の要望を聞いて、本人の気持ちを尊重しながら、ホームの生活に慣れて頂けるように、サービス内容を決定している。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の人格を大切にしながら、本人の生活を援助させて頂くという心がけでケアしている。お互いに生活を楽しむという気持ちで過ごすようにしている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の様子をご家族に説明して、本人の気持ちを優先しながら、ご家族の要望を聞いて、話し合う機会を多く持つようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は、出かける利用者への援助は行っていないが、ホーム内でのクラブ活動を楽しんで頂いている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自由に生活して頂いている中で、リビングで談笑されたり、午後は出きる限り、全員でレクリエーションを行うようにしている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、ご家族より近況報告を頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	常に、コミュニケーションをとるようにして、希望を居室担当者が聞いたり、日常的に会話している中で、本人の願いを早めに叶えるようにしている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の情報をスタッフ間で共有して、入所後も希望を聞き、サポートしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	居室担当者を各利用者に決めて、本人の希望や状態を把握して、スタッフ会議や日々の業務の中で話し合い、情報を共有している。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のスタッフ会議で、全利用者の問題点を話し合っ、ご家族の要望を取り入れて、プランに結びつけている。ご家族には連絡ノートを作り、読んで頂いている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌に毎日実行したプラン内容を記入しながら、ケアの質の見直しを行っている。本人の状態の変化に添った対応を行う様に、留意している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の要望に応じて対応している。通院時の付き添いをその方に合わせて、ヘルパーを依頼したりスタッフが援助している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの来所も随時であり、体操、音楽療法、お茶会、アートセラピー、三味線の会、食事補助等、来所して貰っている。話し相手のボランティアも依頼している。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携している病院の医師が月2回往診の為、来所している。近所の医院への通院をスタッフが援助している。		
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月4回法人の看護師が来所して、バイタルチェック等健康管理して頂き、相談している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の本人の状態をご家族に聞きながら、病院の医師との面談に同席して、ご家族の意向と合わせて、入院後の方針を決定している。提携病院の医師に相談をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に説明して書類を渡している。今後の本人の状態の変化によってご家族に特養ホームの申し込みを依頼している。</p>		
34		<p>急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時対応の講習をスタッフ全員受けて、勉強している。</p>		
35	13	<p>災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>防災訓練を消防署立会いの元、地域の防災団の方にも参加して貰い、消火器の使用法、避難訓練を行った。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に、年長者への尊敬の気持ちを持ちながら、声かけを行って、援助している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から、利用者からスタッフに話しかけ易い雰囲気作りに気をつけて、時々、マンツーマンで希望をお聞きしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の今を大事にして、その方に合った生活のペースを維持して貰えるようにケアしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の様子観察を行い、スタッフが助言したり、整容面の援助をしている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜を切ったり、フライの衣をつけたり、食後の後片付けや食事前の準備を手伝って頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	スタッフが3食共、献立を決めて調理している。野菜を多くとれる様な献立にしている。水分摂取量の把握をしながら、食事やおやつ以外に水分を勧めて摂取して頂いている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの援助している。口腔セットを事務所預かりにして、口腔ケアの援助している。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時、随時にトイレの声かけや、トイレ誘導して、出来る限り、本人の気持ちへの気配りをする様にスタッフが心掛けている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便チェックして、水分や食事量を確保している。水分量が少ない方へは、牛乳、ジュース等好きな物を飲んで頂いている。食事前には、皆で廊下を歩行練習している。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	大体、入浴日はスタッフが決められているが、本人の希望も取り入れている。行事等で、随時変更をしている。時間帯は、その都度、本人の希望を聞いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後や、通院後等、居室やソファ、リビングで休んで頂いて、リラックスした時間を過ごして頂いている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更後は、様子観察を行い、ケースファイルへ記入して情報を共有している。服薬リストを作成して、その都度、記入している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節毎の外出やバーベキュー、行事、ボランティア体操、音楽療法、ゲームや散歩等、出来る限り全員で参加して貰うように声かけして、刺激のある生活を目指して援助している。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所のお店へ、散歩がてら、本人の好きな物を買いにでかけたり、外食の機会を作って出かけている。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを事務所で預かって、本人の好きな食品と一緒に買ったり、依頼された物を購入している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時や、贈り物が届いた時に、ご家族へ連絡して、電話で話して頂いている。友人と、手紙のやり取りもされている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生花や、季節のかざりつけ、貼り絵を利用者と一緒に作成して、季節感を感じて頂いている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングやソファーに座って、気の合う仲間と談笑したり、テレビ、ビデオを見て過ごして頂いている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される時に、自宅での馴染みの物を運んで頂いて、使い慣れた品物がある事によって安心して生活して頂けるように援助している。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各々利用者さんの個性やADLに応じて、声かけに留意している。出きる限り、役割を持って生活して頂けるように援助している。		

目標達成計画

事業所名

グループホームかくやびの

作成日

H23年5月27日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議が年2回の開催のみである。	開催回数を多くしていく。	年4回開催していく。	1年間
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
 注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。